



第1回

三春学校教育の祖
くまだ
熊田
かぜん
嘉膳



三春町はこれまで、全国を、また世界を舞台に活躍する偉人を多数輩出してきました。しかし、その功績が町民に広く知られていない人物も少なくありません。『広報みはるが好き』では今月号から、そんな三春の偉人の功績を後世へとつなぐ新企画「三春 未来へつなぐ偉人伝」をスタートします。記念すべき第1回は熊田嘉膳を取り上げます。



2



1



4



熊田は文化14(1817)年、田村郡岩井澤村(現在の田村市都路町岩井沢)に生まれました。15歳で三春藩医熊田家の養子となり、江戸に出て西洋医学を学んだほか、兵学や兵器の製造にも高い関心を示し、長崎へも出かけるなど、高い好奇心と行動力で知見を得ました。嘉永6(1853)年のペリー来航時には藩命を受け浦賀へと視察に向かっています。そうした動きのなかで広めた知識と交遊のもと、安政2(1865)年には水戸藩に乞われ、大砲鑄造のために必要な反射炉の製造に携わりました。

明治になると、熊田は三春で教育の現場に深く関わります。三春藩校(講所)の教授や現在の三春小学校の前身、温知小学校の初代学校長などを歴任。明治、大正期の日本の発展に貢献する多くの人材を育てました。

きっと熊田も、日々明德門をくぐる子どもたちの姿を見つめ、彼らが背負う日本の未来に想いを馳せていたに違いありません。熊田が生まれてから来年で210年。あらためてその足跡を辿ります。

と行動力で、幕末・明治を駆け抜けた先駆者